

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『 社会人として自立し、自身の夢を実現させ、地域や社会に貢献できる人材を育てる学校 』

1 「社会人としての素養」を育む

「時間を守る」「挨拶ができる」といった基本的な生活習慣を確立し、時には厳しく寄り添いながら生徒への指導・支援を行い、生徒の「豊かな心」、「自尊感情」、「規範意識」を育てる。将来、地域の指導者として活躍できる人材の育成に力を注ぐ。

2 「確かな学力」を育む

基礎学力の定着を目標に、生徒自らが主体的に学び、考えをまとめ、発表できる力を育成する。また自学自習の習慣を身につける環境、学習支援体制を整え、教職員の「授業改善」に対する組織的な取り組みを推進する。

3 「未来を拓く力」を育む

生徒一人ひとりが自らの将来像を描き、希望や適性等に応じた進路を実現できる力を育む。また様々な課題を抱え支援を必要とする生徒に対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校と連携をしながら、すべての生徒が安心して学校生活を送れる教育環境づくりに努める。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く力の育成

(1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善

ア 生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。

イ 教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等をおして「授業改善」を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断の授業理解度を3年後には80%とする。(H30:69%、R01:72%、R02:68%)

(2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立

ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。

イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。

※ 図書館利用者数を3年後には年間6000人とする。(H30:2078人、R01:5365人、R02:4020人)

(3) キャリア教育の充実と希望進路の実現

ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。

※ 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には85%とする。(H30:75%、R01:82%、R02:80%)

2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養

(1) 一人ひとりへの支援体制の強化

ア 生徒が安心して相談できる環境を整備し、課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握できる体制を作る。

イ 生徒一人ひとりに必要な支援を行うために保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を図る。

(2) 生徒の「規範意識」、「自己有用感」、「人権意識」の醸成

ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。

イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、社会性を育む。

ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。

3 安全・安心で魅力ある学校づくり

(1) 「必要とされる学校、入りたい学校」をめざした効果的な広報活動

ア 中学校訪問、学校見学会や学校説明会等のさらなる充実を図り、HPをはじめICTを効果的に活用する。

※ 入学生の学校説明会参加率を3年後には50%にする。(H30:38%、R01:未調査、R02:未調査)

※ 保護者向け学校教育自己診断におけるHPおよび配信メールの利用度を3年後には90%にする。(H30:66%、R01:65%、R02:77%)

(2) 生徒が安全に安心して生活できる環境づくり

ア PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。

※ 学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を3年後には生徒・保護者とも70%にする。

(H30:生徒53%、保護者56%、R01:生徒60%、保護者60%、R02:生徒57%、保護者59%)

(3) 地域に貢献できる人材の育成

ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。

イ 体育専門コースの充実を図り、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

(1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。

(2) 校内ネットワークを含めたICTの活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年10月実施]	学校運営協議会からの意見
<p>令和2年度との比較において、全22項目中保護者では17項目、教員では9項目で肯定的回答の割合が下降した。生徒においてはそれほど大きな変化は見られなかった。今年度は昨年度に続き、学校行事の変更や縮小、実習や実験の機会の減少などがあり、多くの項目に影響していると思われる。また、1年生の保護者において、年度別に比較したところ、ほぼ全ての項目で肯定的回答の大幅な下降が見られた。保護者が学校へ求めるものがこれまでと変化しているのではないかとと思われる。</p> <p>【学習指導等】 生徒の「学校で勉強するのは大切なことだと思う」「授業はわかりやすい」「先生は生徒の能力や努力を適切に評価している」などの項目でポイントが上昇し、教職員の「授業においてはICT機器を積極的に活用している」や「生徒の実態をふまえ、指導方法の工夫・改善を行っている」の項目の肯定的回答が90%を超え、年々上昇している。このことから教職員の生徒の実情に合わせた授業改善の取り組みの成果が生徒の結果に表れている</p>	<p>◇ 第1回（書面による意見聴取で6月に実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『時間を守る』『挨拶ができる』ことは信頼される大人への基本事項だと思う。具体的な取り組みで実践してほしい。また授業において主体的に学び、考えをまとめ、発表する取り組みをあらゆる場面で取り入れてほしい。 ・生徒が安心して学ぶことができる環境であることが美原高校の良さだと思う。規範意識・人権意識の育成に今後も取り組んでほしい。 ・遅刻指導の徹底により素晴らしい成果をあげることができていると思う。ぜひ継続してほしい。生活指導の内容について大変わかりやすく具体的に明記されていると思う。 ・基本的な生活習慣を身につけさせ、落ち着いた教育環境を保つことができていると思う。 ・キャリア教育を充実させ、全ての生徒の進路保障に向けてさらに取り組んでほしい。 ・校外での学習する機会に制限がある中で創意工夫を凝らしていることがわかる。また少人数授業の取り組みは素晴らしいと感じる。 <p>◇ 第2回（令和3年11月29日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断において「生活指導」について肯定的に回答している生徒の割合が非常に多い。

<p>ことがわかる。今後も継続して授業改善の取り組みを学校全体で進めていきたい。</p> <p>【生徒指導等】 「学校は生活指導をきっちりと行っている」の項目では肯定的回答が生徒も保護者の80%以上と高く、学校の指導方針が浸透していることが伺える。また、「学校では、将来の進路や職業について適切な指導を受けられる」の項目では肯定的回答が生徒では80%以上、保護者においても70%以上と高く、1年次より行っているキャリア教育や数々の進路説明会によるものであると思われる。今後も丁寧な指導を続けていきたい。</p> <p>【学校運営】 「悩み（いじめなど）や相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の項目では肯定的回答は生徒では75%、保護者では65%となっている。教職員の「いじめが起こった際の体制や教育相談体制が整備されており、生徒を支援する体制がある」の肯定的回答も85%近くあり、校内の体制が整いつつあることがわかる。支援の必要な生徒が増えつつあることから今後も体制の整備、見直しを行っていく必要がある。教職員の「学校運営に教職員の意見が反映されている」の項目で昨年度より17.5ポイント下降し、47.7%となった。それぞれの教職員の意見を聞き、魅力的な学校づくりをしていく環境を整えていかななくてはならない。</p>	<p>美原としてふれずに懇切丁寧に説明しながら指導をしてきた結果であると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの数値が非常に高い。「教材活用」の項目の数値が高いのは、プロジェクトとホワイトボードの活用で、授業が理解しやすくなったことを反映している。 ・観点別学習状況評価において「主体的に学習に取り組む態度」では、教科間でのすり合わせと生徒への丁寧な説明が必要となる。 ・生活指導部の細かい指導方針をよく実施してくれている。自転車通学をしている生徒を見ても、指導をきっちりされているなど感じる。 ・この3年間で、美原高校の生徒支援の体制は大変進んでいる。その点をもっと中学生に知ってもらえるようアピールした方がいい。 ・非常に落ち着いて授業を受けている。ICTの活用が授業の質の向上につながっている。 ・ICTの活用が浸透してきている。プロジェクトに映す字の大きさ、濃さが授業によってまちまちであったのが少し気になった。 ・年々、先生方の生徒への距離感が近くなっている。先生方が創意工夫をして、生徒に寄り添っていると感じた。 ・大人しい性格の子でも落ちついて安心して学校生活を送れるところが美原高校のいいところ。 ・スポーツで強い部があるとか、何か高校として特徴を出せるものがあるといい。 <p>◇第3回（書面による意見聴取で2月に実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導、生徒指導において、生徒、保護者の肯定的回答が高い割合を示しているのは、これまでの授業改善の取り組みや丁寧な生徒指導、キャリア教育の成果であると思う。 ・学習障害のある生徒への支援が手厚く感じた。生徒支援体制を学校全体の目標として掲げていることが良かった。 ・生徒の授業理解度において昨年度よりも高くなっていることは教員の授業づくりの賜物だと思う。今後も生徒に応じた授業づくりをしてもらえたらと願う。 ・保護者が学校に求めるものが変化しているとの分析があるが、保護者アンケートの回答などからそれを明確にし、今後の重点目標や取り組みに反映させることが大切である。 ・丁寧な生徒指導、授業、キャリア教育により生徒の満足度も一定の高水準を得ることができていると感じた。 ・生徒の状況を踏まえて、ICTを活用した1人2台端末の活用とペアやグループなどの対話から学びを取り入れた生徒が主体的に学ぶ取り組みを発展させてほしい。 ・コロナ禍の影響を受けながら、その中でも教員が創意工夫を凝らして学校生活を有意義なものにしようと努力されてきたことが伺える。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 進路を切り拓く力の育成	(1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。 イ 教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等とおして「授業改善」を図る。	ア・グループワークやプレゼンテーションを取り入れた授業研究を進め、「主体的で対話的な深い学び」への取組みを推進する。 ・ICTを積極的に授業で活用し「わかる授業」への取組みを推進する。 イ・公開授業・研究授業の実施や授業アンケート結果の分析を行い、授業改善・授業力の向上を図る。 ・経験年数の少ない教員を中心に他校種の授業見学を実施し、教員力の向上をめざす。	ア・学校教育自己診断（生徒）「勉強することは大切」[82%]、「授業はわかりやすい」[69%]を昨年以上にする。 ・教員の授業でのICT活用度を昨年度以上にする。[93%] イ・学校教育自己診断（生徒）「教え方の工夫」の肯定度を昨年度以上にする。[76%] 授業アンケートによる評価の平均値3.4以上を維持する。 [3.46] ・他校種（小中学校、支援学校、大学など）との教員交流を2回以上実施する。[2回]	ア「勉強することは大切」83.2% (○) 「授業はわかりやすい」73.5% (○) 教員のICT活用度 94% (○) 9割以上の教員が授業時間の50%以上でICTを活用し、さらに観点別評価を取入れた授業の工夫などにより、生徒が学習に意欲的に取り組むことへの効果が表れた。 イ「教え方の工夫」77.5% (○) 授業アンケート評価平均 3.53 (○) 他校種との交流0回 (-) 観点別学習状況評価のための職員研修や研究授業などの取組みが好結果につながった。他校種との交流が全くできない状況ではあったが、今後もさらに広い視野で様々な取組みを行い教員力の向上を図りたい。
	(2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。 イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。	ア・習熟度別少人数展開授業（1年・英語、数学）の実施により、基礎学力の定着を図るとともに学習を大切にすることを育む。 ・3年生での少人数展開授業（国語、英語）やスピーチコンテストの実施により、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。 イ・学習に利用できる書籍の拡充（地域の図書館との連携も含む）および調べ学習や探究活動等、図書館を利活用した授業を推進する。	ア・学校教育自己診断（生徒）「少人数によるきめ細やかな指導」を昨年度以上にする。[66%] ・1年習熟度別少人数展開授業での満足度について昨年度水準を維持する。 [数学 83%・英語96%] ・3年少人数展開授業での満足度について昨年度水準を維持する。 [国語94%・英語 83%] イ・公立図書館からの団体貸出数を昨年以上に[50冊]。 図書館利用数並びに貸出数を昨年以上に[4020人（うち授業1548人）・759冊]	ア「少人数によるきめ細やかな指導」70.3% (○) 少人数満足度 1年数学 88.5% 2年英語 91.5% (△) 3年国語 94.4% 3年英語 90.3% (○) 1年生で若干満足度が下がったが概ね高評価であった。 イ公立図書館団体貸出数 130冊 (○) 図書館利用数 2275人（授業819人） 貸出数 332冊 (△) 図書館利用に関しては生徒数の減少もあるが利用者が減少した。今後一層の利活用に向けた取組みに努めたい。
	(3) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。	ア・3年間を見通した計画に基づき進路指導の充実を図り、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。	ア・学校教育自己診断（生徒）「適切な進路指導」の肯定度を昨年度以上にする。[80%] 学校斡旋就職1次内定率を昨年度以上にする。[85%]	ア「適切な進路指導」82.6% (○) 学校斡旋就職1次内定率 88% (○) 丁寧な進路指導が生徒に評価され、指導の実践効果が良い結果として表れた。

府立美原高等学校

<p>2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養</p>	<p>(1) 一人ひとりへの支援体制の強化 ア さまざまな支援が必要な生徒に対し情報共有しながら、組織として支援できる体制を整える。</p> <p>イ 生徒一人ひとりが抱える諸問題に必要な支援を行うために積極的に外部機関との連携を図る。</p> <p>(2) 生徒の「規範意識」「自己有用感」「人権意識」の醸成 ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。</p> <p>イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。</p>	<p>ア・学習を含め課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握し、指導できる体制を維持する。</p> <p>イ・SCを活用した教育相談窓口を機能させ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。 保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を積極的に図る。</p> <p>ア・登下校指導、遅刻指導、校内巡回など生活習慣確立をめざす取組みを全教職員で行い、生徒が安全で安心して学べる環境を維持・発展させる。</p> <p>イ・体育大会、文化祭等生徒が主体的に企画・運営・参画する行事を充実させる。 ・新入生の部活動体験の実施や、部活動の成果を発表する機会を増やすことなどにより、部活動を顕彰する。</p> <p>ウ・いじめアンケートの実施やSNSをめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。 ・「総合的な探究の時間」の年間計画の中で国際理解学習を計画的に取入れる。</p>	<p>ア・学校教育自己診断（生徒・保護者）「親身に相談に応じてくれる」肯定度[74%・65%]、（保護者）「相談に適切に応じてくれる」肯定度[73%]を昨年度以上にする。</p> <p>イ・SCの活用回数について昨年度水準を維持する。[14回]</p> <p>ア・生徒一人あたりの平均遅刻回数1.2回以内を維持する。[1.1回] ・学校教育自己診断（生徒）「生活指導」肯定度70%以上を維持する。[70%]</p> <p>イ・学校教育自己診断（生徒）「学校行事」満足度を70%以上にする。[61%] ・新入生の部活動加入率を50%以上にする。[45%] 学校教育自己診断（生徒）「部活動がさかん」肯定度を昨年度以上にする。[62%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断（生徒）「人権教育」に関する肯定度を昨年度以上にする。[79%]</p> <p>・外部人材を招聘し、国際理解学習を効果的に行う。</p>	<p>ア「親身に相談に応じてくれる」生徒 74.2 % 保護者 65.5% (○) 「相談に適切に応じてくれる」70.2% (△) 教育相談体制は整いつつあるが、課題の多様化する中において更に組織としての強化をめざしたい。</p> <p>イ SC活用回数10回 (△) 他校を含めてのSCの日程調整が困難であったため、予定回数を減らさざるをえなかった。</p> <p>ア 平均遅刻回数 1.42 回 (△) 「生活指導」肯定度 87.1 % (○) 本校の生活指導に関する取組みは生徒へ理解・支持されている。 遅刻回数の若干の増加が見られるので、生活習慣の確立に一層努めたい。</p> <p>イ「学校行事」満足度 64.4 % (－) 新入生部活動加入率 32 % (△) 「部活動がさかん」肯定度60.5% (－) 体育大会等の行事が中止となった。 部活動の活動制限があり新入生勧誘が出来なかったことが入部率低下の一因となった。</p> <p>ウ「人権教育」肯定度 80.9 % (○) 職員研修や定例会議が効果的に行われ、生徒への指導は一定理解されている。さらなる向上に努めたい。 海外語学研修、国際交流事業などを計画通り行うことができなかった。 (－)</p>
------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

府立美原高等学校

<p>3 安全・安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 「必要とされる学校、入りたい学校」をめざした効果的な広報活動 ア 中学校への広報活動を範囲を拡げ実施するとともに、近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。</p> <p>(2) 生徒が安全に安心して生活できる環境づくり ア 保護者への積極的な情報提供に取り組む。</p> <p>イ 地域と連携して様々な安全教育に取り組む。</p> <p>ウ PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。</p> <p>(3) 地域に貢献できる人材の育成 ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。 イ 体育専門コースの充実を図り、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。</p>	<p>ア・中学校訪問、学校説明会、体験授業等のさらなる充実を図る。</p> <p>・HPを随時更新することで、本校の取り組み等を発信し、広報に努める。</p> <p>ア・メール配信等により、(非常変災時の対応など)保護者へ迅速かつ適切な情報提供を行う。</p> <p>イ・地域の外部機関等と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みをすすめる。(熱中症対策や防犯・防災、交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等)</p> <p>ウ・PTAや同窓会等と連携した教育環境整備の推進および校内緑化活動の実施</p> <p>ア・生徒の地域のイベント等への自主的な活動を推奨し、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。 イ・体育専門科目の特色ある授業の展開や防災教育の観点を取り入れた校内での野外体験実習等を実施する。</p>	<p>ア・学校や地域での説明会の参加者数を500人以上にする。[302人]</p> <p>・HPの更新回数80回以上を維持する。[90回]</p> <p>ア・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度を80%以上にする。[79%] 保護者向けメール配信回数を昨年度以上にする。[50回]</p> <p>イ・自転車の交通事故件数30件以下にする。[31件]</p> <p>ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度を60%以上にする。 [生徒 57%、保護者 59%]</p> <p>ア・地域のイベント等への生徒参加人数を50人以上にする。[24人]</p> <p>イ・体育専門コース選択生の満足度95%以上を維持する。 [2年94%, 3年100%]</p>	<p>ア 説明会参加者数 194人 (一) HPの更新回数 56回 (△) 生徒数の大幅な減少および感染症への懸念から説明会参加を控える生徒・保護者が増加した。広報ツールとして学校HPの更なる充実が必要である。</p> <p>ア「HP・メール」利用度 78% (△) メール配信回数 26回 (△) 昨年度に比べ、感染症対応などの情報発信が少なかった。今後も安全・安心な環境づくりのための情報発信に努めたい。</p> <p>イ 自転車事故件数 39件 (△) 昨年度に比べ、登校日数が増えたため、一昨年度(52件)に近づくペースで増加している。交通安全教育にさらに努めたい。</p> <p>ウ・「施設・設備」の満足度 生徒 55% 保護者 57% (△) 防災対策、感染症対策など様々な観点から施設・設備の充実をさらに図っていく必要がある。</p> <p>ア・イベント参加人数 28人 (一) 地域のイベントがほとんど中止となり、部活動等が地域参加できなかった。</p> <p>イ・体育専門コース満足度 2年 86% 3年 91% (△) 感染症対策に伴う体育専門科目の授業内容の見直し、体育大会等の学校行事が実施できなかった。</p>
<p>4 校務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>(1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。</p> <p>(2) 校内ネットワークを含めたICTの活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。</p>	<p>・最終退勤時間の目標時刻の見直し等の取組みにより、時間外労働の縮減を図る。</p> <p>・ペーパーレス会議の実施、一斉メールの配信など、業務の効率化のためのネットワークの活用をさらに推進する。</p> <p>・ネットワークを活用した分掌・委員会・学年での情報の共有化および教科内での教材の蓄積、共有化を図る。</p>	<p>・職員の時間外労働月平均時間を28時間以下にする。[29h29m]</p> <p>・職員会議をすべてペーパーレスで行う。 校長からの連絡や、資料提供にメール配信を活用する。[47回]</p> <p>・職員朝礼等の連絡事項は全校トップページより美原高校の連絡掲示板を活用する。[56回]</p>	<p>時間外労働月平均時間 25h55m (○) (昨年度と同じ算出方法) 時間外労働の縮減意識の浸透および業務内容の見直し、効率化を今後さらに進めていく必要がある。 職員会議はペーパーレスで行い、研修等においてもタブレット端末を活用することにより、省資源化や情報の共有化がより一層進んできた。 校長からのメール配信 42回 連絡掲示板の活用 172回</p>